

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102956		
法人名	有限会社 サカイコーポレーション		
事業所名	グループホーム楓	ユニット名	本館
所在地	宮崎県宮崎市大字郡司分甲1570番地1		
自己評価作成日	平成30年10月29日	評価結果市町村受理日	平成31年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=4570102956-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者1人ひとりと寄り添うことができている。時間・環境が幅広く確保できている。
- ・家庭的な生活を維持する上で、残存機能を充実に発揮できるように利用者様のペースで支援出来ている点
- ・多くの来客者から、ホーム内の雰囲気が良いとお褒めの言葉を頂いている。利用者と介護者である職員の関係者が良好だからと考えられる。
- ・暮らしやすい生活が、できるように支援しており利用者一人ひとりに合ったケアができている所
- ・施設は、清潔が保たれており穏やかに生活を送れるような体制が整っている。
- ・食事は、職員が手作りしているため季節に応じたメニューや利用者のリクエストにも応じることができる。
- ・ゆったりとした時間が流れており、職員と利用者との密なコミュニケーションが図れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1年半前から2ユニットになり、廊下でつないで行き来ができるようにしている。その為、夜間の職員配置では緊急時など協力体制が取れるので職員の負担軽減につながっている。季節の食材を使って職員が料理を作るなど家庭的な雰囲気で対応するように心掛けている。職員は利用者と同じテーブルで食事をとったり、利用者の能力や状態に応じて一緒に配膳や片付けなど手伝ったりして楽しい時間となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務室など職員の目に付きやすい場所に掲示し理念の振り返りをしやすくすると共に、毎月の内部研修で職員全員で唱和を行い、実践につなげられるようにしている。	ホームの随所に6項目の理念を掲示している。日頃の振り返りをするとき見ることで自身の姿勢を問い直し、理念の実践に繋がるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りで施設駐車場を子供神輿の休憩所として使用して頂くなど入居者と子供達の交流も行っている。運営推進会議に地域の地区役員の方に来て頂き、施設のことを地域の方にも知って頂けるよう努めている。	地域の夏まつりに参加し、子ども神輿の休憩所として使用してもらい、子ども達との交流を行っている。散歩の際には地域の人と挨拶を交わし繋がりを深めるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談をいつでも受け入れる準備を整えている他、ボランティアや介護実習の実習施設として提供している。また、体験学習の受け入れも行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者ご家族、地域住民の代表、関係機関の方々を招いた運営推進会議をおおむね2ヶ月に1回開催し、現状の報告や意見交換を行い、サービスの向上に役立てている。	家族代表や地域住民の代表、関係機関が参加している。ホームの現状を報告し、情報や助言も出て双方向的で活発な意見交換が行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や関係機関の主催する研修会に参加し、挨拶や情報交換を欠かさないようにしている。制度の変更等で不明な点があった時には、担当部署に出向き、相談等を行っている。	日頃から市役所を訪問し、情報交換や制度変更時の内容確認など協力関係が得られるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを用いた内部研修を定期的に行い身体拘束についての理解を深めながら、研修への参加、職員同士の意見交換等も行っている。身体拘束適正化委員会を設置しており外部からの目も入るようにしている。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、運営推進会議時に身体的拘束適正化委員会を開催している。内部研修を定期的に行い、全職員が共通の理解を深めるように意識の向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で定期的に取り上げ、普段のケアについて振り返る機会を設けている他、高齢者虐待防止マニュアルを職員がいつでも閲覧できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを使った内部研修を定期的に関き、職員の理解を深めている。介護福祉士などの有資格者や権利擁護推進委員が在籍し、いつでも相談を受け入れる体制を整えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	電話での問い合わせ、施設見学時から運営方針などについての説明を行い、十分理解していただいた上で契約・入所していただけるよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族総会等で家族同士の交流を行い、意見交換がしやすい環境づくりに努めている。また、個別にご家族とサービス担当者会議や意見書箱を設置することで意見を述べやすいように配慮している。	担当者会議の時に個別に意見を聴いたり、日頃から来訪時に気楽に話せる雰囲気作りをしている。また、玄関に意見箱を設置して意見や相談がしやすいような環境づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上で出てきた課題については、まず職員同士で対応法などを模索し、管理者へ相談している。緊急の場合を除き、会議で全職員で話し合った上で対応法を決定している。	管理者は職員の話聞くように努めており、職員が意見や要望を日頃から言える環境がある。また会議の時に提案する体制ができており、職員の意見や提案をサービスに反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	余裕を持った人員配置にしている。資格・積極性などを考慮し、本人の強みを活かすことができる業務を割り振りながら、実績に合わせて介護職員処遇改善加算を支給している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務に関して、定期的に役割分担を交代したり勉強会を行ったり研修参加を促すことで、様々な知見を得る機会が出来るよう支援している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種協議会への参加、医療従事者や介護従事者と情報交換などを行っているほか、他施設の職員の見学や訪問等を積極的に受け入れている。介護実習生と共に相互訪問なども行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用までに本人とお会いする機会を持ち、本人の個性や要望を確認することで施設生活を安心して始められるよう支援している。職員ひとり一人が明るい雰囲気で見守り、安心できる関係作りを心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から施設利用までに家族と話し合う機会を持ち、家族からの要望を確認した上で家族の不安が軽減するように支援している。施設での生活を知っていただくためイベントなどの見学等も受け入れている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせがあった時やホーム見学時等に「ご家族の意向や本人の状態などを伺い、ホームの説明を行っている。場合によってはご家族の意向にあった他の施設サービスを説明することもある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることや希望を尊重しながら、家事のお手伝いや得意とする活動を行う機会を増やし、一人ひとりが能力を発揮し、生きがいを感じ持ちつ持たれつの関係性を築いていけるよう支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で来られた際に本人の施設生活状況を報告し、家族にも喜びを共有してもらえるような援助を心がけながら、有事の際には本人の為になる解決を目指したご家族の協力を得られるよう良好な関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は家族だけでなく友人も来られている。感染症予防やキーパーソンの意向を尊重しながら友人やご家族との外出支援を行っている。訪問時には飲み物を飲んでゆっくり談笑していただけるような場を提供している。	定期的に訪れる知人がおり、継続して訪問してもらおう声かけして支援している。カルチャー(体操教室)、外食、買い物、親族のお見舞いなど家族の協力を得て支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自発的な発言が少ない方など非言語的な部分にも目を配り、利用者同士の関係把握に努めている。利用者同士のより良い関係が築けるよう職員が間に入ったり、定期的に席順を変更する等している。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が途絶えないよう、退所後に自宅や転居先を訪問し、本人やご家族の様子を伺いに行かせて頂いている。また、相談等があればできる限り対応させて頂いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動や表情に注目し、その背景等を考慮して、できる限り本人の希望・意向を把握できるよう努めている。職員からも積極的に話しかけ、話しやすい環境づくりを意識している。	利用者に寄り添い、本人の希望や意向、思いの把握に努めている。個人記録の記載について介護目標に基づく記録が少ないなどの点が見受けられた。	記録の記載について、検討の機会を持ち、利用者一人ひとりの思いを把握する体制づくりと個別ケアの向上に期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院・施設からの情報提供、または本人や家族とのコミュニケーションを通して生活歴等を出来るだけ把握する努力をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や言動を記録し現状の把握に努めている。職員同士でも利用者の状態について密に話し合い、得た気づきなどを介助に役立てている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く過ごせるよう、本人が困っていることや身体的・認知的課題に対してどのようなケアが良いか、職員同士で密に情報交換を行い、視点が偏らないよう多角的に検討しながら介護計画を作成している。	担当職員が評価を行い、それを基に計画作成担当者がモニタリングを行っている。全職員で情報を共有し、会議で話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間センター方式を応用した専用の記録用紙に施設での生活の様子・状態・言動等を毎日手書きで記録している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後あらたに必要となってくるであろう対応等について、全体会などの場で職員同士で話し合い準備することで、柔軟な対応ができるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や傾聴ボランティアなどを利用することで日々の生活の刺激になるよう役立っている。施設の催事にはご家族やボランティアの方に参加して頂き、季節や行事の楽しみをより感じて頂けるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重したかかりつけ医の選択ができている。またかかりつけ医による施設の往診や家族病院受診等の連携体制も取れている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院は家族と一緒に受診しているが、状態に応じ職員が同行している。月2回の往診、週1回の訪問看護があり適切な医療支援に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護体制を整えている。それ以外にも利用者の病院受診・往診後や、体調に異変があった際など、必要に応じて看護職に相談できる体勢があり、適切な医療を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とスムーズな情報交換が出来るよう医療職と情報の共有を図っている。入院された際には、定期的に面会に行き、利用者及び家族が安心して治療できるよう努めている。また、平常時に挨拶に伺ったりなど顔なじみの関係づくりに努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでのケアの限界や、終末期のケアについては入所時からご説明させて頂いており、本人・ご家族と方針を共有しご理解頂いている。また、必要に応じて医療や医療に特化した施設など本人が安心して生活できる環境を整えられるよう支援している。	入居時に重度化や終末期におけるホームの方針を本人、家族に説明している。状況に応じ家族やかかりつけ医と話し、医療機関、他施設の紹介など利用者本位で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等発生した場合は再発防止のための対応を早急に検討し、内部研修で対応法について振り返りを行っている。外部から専門講師を招き、事例別の対応法についての勉強会を定期的に設けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を設置し年2回防災訓練を実施している。日中・夜間の被災等あらゆる場合を想定した訓練を行い、訓練実施時には地域の消防団の方や防災士にも参加して頂き、初期対応について学んでいる。	防災士の資格を持つ職員もおり、地域の消防団も参加して夜間など種々の場合を想定した訓練を行っている。避難場所の確認、誘導を見やすいところに掲示し、意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人格を尊重する介護」を理念の1つに掲げ意識付けを行うと共に、全体会などで普段の介護についての振り返りや議題として取り上げ話し合う等、職員一人ひとりが自身の介護について顧みる機会を設けている。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をして不安を抱かせないようにしている。自分がされて嫌なことはしないなど利用者の気持ちに寄り添った対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の見守りや補助の元、様々なレクリエーションや家事の手伝い等をして頂き、その時の会話や表情などを観察している。日常生活の中で好みや希望等をできるだけ尊重し自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望を尊重した介護を行っている。清潔保持に関わる排泄や入浴に関しても本人の意志をできるだけ尊重し、声かけの仕方等を工夫しながら本人の気持ちに寄り添えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時間・その日の天候や室温に合わせて本人が着たい服を着ることができるよう支援している。衣類選択を一緒に行ったり、好みの服の把握にも努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で食事を作っており、食事のできる匂いや音なども楽しんで頂いている。利用者の方が食べたいといった料理を作ったり、一緒に配膳や後片付け等手伝って頂いたり、食事の時間が楽しくなるよう支援している。	毎食、職員の手づくりの料理を一緒にテーブルで食べている。利用者は能力に応じて配膳や片付け等協力している。テレビはつけず、音楽を聴きながら楽しい時間になるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録することで個々の栄養摂取量や水分量の把握に努めている。水分摂取量が少ない方にはできる限り水分をとって頂けるよう声かけを工夫したりなど試行錯誤しながら支援に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りの下、口腔ケアを行っていただいている。自分で磨ける方に対しては、磨いていただいた後に磨き残しなどないか口腔内を確認するなど、清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれていない利用者には定期的に声掛けトイレ誘導を行っている。自立した排泄を目指し、極力排泄に失敗しないよう、排泄パターンを記録し誘導や腹部マッサージなどの支援を行っている。	定期的に声掛けや誘導をしてトイレでの排せつができるように支援している。夜間は排せつパターンを把握して誘導している。入居時にオムツ使用者もパターンを把握して誘導することでトイレでの排せつが可能になった例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維物を多く含んだ食物や発酵食品を食事・おやつで毎日提供している。自然排便を促す為、運動等レクリエーション等を積極的に取り入れたり、水分摂取を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回を目安に入浴支援を行っている。突発的な来客等でその時間に入浴できなかった場合も本人の希望等を考慮し、順番を変更するなど融通性のある入浴支援を行っている。	週2～3回が目安であるが、いつでも入浴出来る体制がある。また、状況に応じ他ユニットでの入浴も可能である。入浴を拒む場合は無理強いせずに足浴や着替えなど本人の気持ちを優先しながら入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週布団のシーツ交換と天日干しを行っている。利用者本人や家族との面談の中で生活習慣を把握し、訪問看護等とも情報共有し、居室で休んでいただく時間を設けることもある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に職員2名以上で薬袋の利用者名を読み上げ確認し、利用者とも服用時間等を確認した上で服薬などの支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの聞き取り、レクリエーションへの参加やお手伝い時の様子等から一人ひとりのできること・楽しみを考え取り入れるなど、喜びや張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調を考慮し、ホームのまわりの散歩を行っている。日常会話の中で聞かれた本人の外出希望をご家族に伝え、散歩・外食・外泊・墓参りなど、ご家族にも協力していただき外出支援を行っている。	天候や利用者の状態を把握しホームの周辺の散歩を行っている。家族の協力を得て、外食、墓参りなど外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	本館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から一人ひとりのお小遣いを預かっており、ホームで管理している。本人にもその旨説明し理解していただいております、外出時等に随時使用できるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年始の挨拶や手紙等自由に書いていただき、必要に応じて職員が側につき文面と一緒に考えるなど補助し、馴染みの方との交流が途絶えないよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節のイベントなどの飾り付けを行っている。共用空間の清掃を手伝って頂き快適な空間を維持すると共に、自分にも役割があると一人ひとりに充実感を感じていただけるよう支援している。		居室前の廊下は昼夜の時間帯に合わせた照明になるように工夫がされており、温度や換気に気配りしている。広々とした空間にソファが置かれ、利用者が思いのままゆっくり寛げるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で読書をしたり数人でテレビを観たり、その時の気分に合わせて思い思いの時間が過ごせるようホーム内の要所に数人がけのソファや一人用の椅子を置いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒や怪我、異食の恐れがあるものを除き、居室に置くものについては、本人・ご家族の希望を尊重している。布団や枕等本人の使い慣れたものを使っただき、居心地よく過ごせるよう支援している。		布団や枕など本人の使い慣れた物を持ち込まれるよう助言し利用者が居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂等毎日の生活で繰り返し使用する場所は案内板等を使うなどわかりやすさに配慮している。利用者の残存機能を考慮し、補助器具などを活用しながら安心・安全な生活が送れるよう支援している。			